

輝け！

創立65周年記念誌



一般社団法人
茨木青年会議所

一般社団法人茨木青年会議所

創立65周年記念誌

JCI クリード・JCI ミッション・JCI ビジョン・JC 宣言・綱領	2
第 66 代理事長 挨拶	3
祝辞	4
70 周年へ向けての 10 年指針	11
中間検証	12
茨木 SDGs の再編	19
組織改革について	21
編集後記および発行情報	23



JCI CREED

The Creed of Junior Chamber International

We Believe ;

That faith in God gives meaning and purpose to human life ;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations ;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise ;

That government should be of laws rather than of men ;

That earth's great treasure lies in human personality ;

And That service to humanity is the best work of life.

<和訳>

我々はかく信じる；

真理は人生に意義と目的を与え

人類の同胞愛は国家による統治を超越し

公正な経済は我々の自由な経済活動によってこそ果たされ

政府には人治ではなく法治が必要であり

人間の個性はこの世の至宝であり

人類への奉仕が人生最大の使命である

JCI MISSION

To provide leadership development opportunities
that empower young people to create positive change.

<和訳>

青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすために
リーダーシップの開発と成長の機会を提供する

JCI VISION

To be the foremost global network of young leaders.

<和訳>

青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを
先導する組織となる

JC 宣言

日本の青年会議所は

希望をもたらす変革の起点として

輝く個性が調和する未来を描き

社会の課題を解決することで

持続可能な地域を創ることを誓う

綱領

われわれ JAYCEE は

社会的・国家的・国際的な責任を自覚し

志を同じうする者、相集い、力を合わせ

青年としての英知と勇気と情熱をもって

明るい豊かな社会を築き上げよう

第66代理事長 挨拶



一般社団法人 茨木青年会議所
第66代理事長 菅 貴之



2026年6月24日、一般社団法人茨木青年会議所は創立65周年を迎えることができました。1961年の誕生以来、65年もの間、歩みを止めることなく変革の起点として運動を続けてこられましたのは、樋口義明初代理事長をはじめとする歴代の先輩方が築き上げられた礎と、脈々と受け継がれてきた「茨木を想う意志」があったからに他なりません。また、行政や各種団体の皆様、そして何より地域の皆様の温かいご支援に、心より深く感謝申し上げます。

JCI 茨木は現在、2020年代の運動指針「サステナブル茨木」を掲げ、持続可能な地域の実現に向けて邁進しております。本年度はその中間地点という重要な節目にあたり、これまでの歩みを検証し、残り5年間の躍進を確固たるものにするため、私たちの運動をさらなる高みへと追求する年でもあります。技術革新が進み、社会構造が目まぐるしく変化する現代において、私たちは「このまちに光を灯すのは我々しかない」という揺るぎない決意を胸に、常に時代の一步先を見据え、地域の課題に真摯に向き合い続けてまいります。

私は、リーダーが情熱を持って挑戦する姿こそが、茨木市を希望の光で照らす「輝」きそのものであると信じています。一人ひとりが個性を活かし、切磋琢磨しながら運動に邁進する中で、組織としての真価が問われるのです。創立65周年というこの記念すべき年を、次なる70周年、さらには100周年へと繋ぐ新たな出発点と捉え、情熱の灯を絶やすことなく活動を加速させてまいります。

結びに、JCI 茨木に集うメンバー一人ひとりが、茨木の未来を照らすリーダーとして「輝」きを放ち、その光が地域全体に波及して、誰もが未来に希望を持てる「明るい豊かな社会」を実現することを誓います。今後とも皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、創立65周年のご挨拶とさせていただきます。

茨木JC シニアクラブ 会長挨拶



茨木 JC シニアクラブ
会長 杉江 茂樹



茨木青年会議所が創立 65 周年という輝かしい節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

1961 年 6 月 24 日の創立以来、歴代の会員の皆様が「明るい豊かな社会」の実現という志を胸に、地域のため、未来のために歩み続けてこられました。その長きにわたる情熱と努力に、深い敬意と感謝を表します。そして、私自身もその歴史の一員として活動する機会をいただき、この佳き日にお祝いの言葉を寄せられることを、大変光栄に思います。

この 65 年という歳月の中で、日本社会は高度経済成長、バブル経済の崩壊、阪神・淡路大震災、そして感染症の世界的流行など、幾多の試練と大きな変化を経験してきました。そのような時代の移ろいの中にあっても、茨木青年会議所は社会の要請に応えながら地域に寄り添い、人と人を結ぶ運動を積み重ねてこられました。

その歩みを支えてきたものは、行政や関係諸団体、地域の皆様の温かいご理解とご支援であり、何よりも歴代会員が世代を超えて受け継いできた「志」と「絆」であったと感じています。

社会課題は時代とともに姿を変え、人々の価値観や生活様式も大きく変化してきました。しかし、どれほど時代が変わろうとも、地域を動かし、未来を切り拓いていくのは、いつの時代も「人」です。人が人を想い、人が行動し、その輪が地域へと広がることで、明るく豊かな社会は築かれていくのだと思います。

近年、人と人とのつながりの希薄化が叫ばれています。だからこそ青年会議所には、地域の伝統や文化を次世代へつなぎ、人と人を結ぶ架け橋としての役割が、これまで以上に期待されているのではないのでしょうか。その活動の積み重ねこそが持続可能な地域社会を育て、新たな価値の創造となり、未来へ希望をつないでいくものと確信しています。

そして、そんな茨木青年会議所の No.1 サポーターであり続けることが、OBである私どもシニアクラブの役割だと思っています。

結びに、茨木青年会議所のさらなるご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げます。そして、この素晴らしい運動が 70 周年、80 周年、さらに 100 周年へと脈々と受け継がれ、未来へ大きく花開くことを願い、創立 65 周年へのお祝いの言葉といたします。

Congratulations



茨木市長
福岡 洋一

一般社団法人茨木青年会議所の創立 65 周年を心からお祝い申し
貴会議所におかれましては、1961 年の発足以来、若い力で常に
この記念すべき年においては、「輝け！」をスローガンに掲げ、「こ
ります。

長年にわたる茨木フェスティバルへの参画や、毎年恒例の辯天花
ムパークいばきた」においてイベントを主催されるなど、継続と革新
私自身も、2011 年から約 5 年間に在籍させていただき、多くの仲間
創のまちづくり」の礎となっております。

その共創の中心地である文化・子育て複合施設「おにクル」は、
的運動広場やイベント・飲食ゾーンなどの開業が予定されており、「次
皆様には、今後も新たな時代を切り拓くリーダーシップを発揮され、
結びに、一般社団法人茨木青年会議所のますますのご発展と、



大阪府知事
吉村 洋文

一般社団法人茨木青年会議所が創立 65 周年を迎えられましたこ
また、皆様には、日頃から大阪府政の推進に格別のご支援をいた
茨木青年会議所におかれましては、1961 年の創立以来、「明るい
展に貢献してございました。

また、今年度創立 65 周年を迎えられるにあたり、「輝け！」をス
皆様方には、この創立 65 周年を契機に、会員相互の結束をさら
昨年は、皆様のご支援・ご協力を得て、万博を成功裏に開催する
ちをはじめ多くの皆様の笑顔と感動があふれました。万博を通じて
世界に伍する経済力・都市力と、唯一無二の魅力を持つ「副首都・
えています。皆様とともに、50 年後、100 年後を見据えた大阪、ひ
皆様には引き続き、府政へのご理解とご支援をよろしく願いいた
結びに、この 65 周年を節目として、一般社団法人茨木青年会議



茨木商工会議所
会頭 栗尾 尚孝

一般社団法人茨木青年会議所が創立六十五周年という記念すべ
に尽力されてこられた歴代理事長をはじめ、会員並びに関係者の皆
青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を理想に掲げ、修練・
歩みを重ねてこられました。時代が大きく変化する中であっても、地
茨木青年会議所におかれましては、1961 年（昭和 36 年）の創立
に大きく貢献されてきました。若い力と柔軟な発想で市民や関係団
商工業の振興と地域経済の発展を使命とする茨木商工会議所にと
てまいりました「茨木フェスティバル」は、市民・企業・行政・関係
ております。その中心的な役割を担ってこられた貴青年会議所のご
担う人材の育成と持続可能なまちづくりに向け、より一層連携を深め
結びに、一般社団法人茨木青年会議所のさらなるご発展と、会員

上げます。

時代の変化を捉え、本市に新たな光を灯し続けてこられました。

のまちに光を灯すのは我々しかない」という気概をもって、事業に取り組まれる皆様の姿勢に、大きな期待を寄せてお

火大会における警備活動への従事、また、2025年に日本最長の歩行者専用吊り橋「ゴウダブリッジ」がオープンした「ダ
の両輪をもって、わがまち茨木のにぎわい創出に多大なるご尽力をいただいております。

と共に青年会議所活動に汗をかきました。その経験こそが、市長としての私の原点であり、いま本市が推進している「共

令和5年11月の開館から約3年で来館者500万人を突破しました。さらに、「ダムパークいばきた」においても、多目
なる茨木」への歩みはこれからも着実に続いてまいります。

茨木市の未来を力強く牽引してくださることを願っております。

会員皆様方のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

とを心よりお祝い申し上げます。

だき、厚くお礼申し上げます。

豊かな社会」の実現に向け、次世代育成やまちづくり、国際交流など、様々な事業を展開され、「輝」かしいまちの発

ローガンに掲げ、「このまちに光を灯すのは我々しかない」を基本理念に活動しておられます。

に強められ、より一層、地域発展のためにご尽力いただきますようお願い申し上げます。

ことができました。国内外の2,900万人を超える来場者が「いのち輝く未来社会」を体感し、会場では連日、子どもた
得られた多岐にわたる成果をレガシーとして活かし、成長し続ける大阪を実現します。

大阪」を早期に実現できるよう、全身全霊で取り組んでまいります。これが大阪の果たす役割であり、責任であるとも考
いては日本の未来のため、強い自治体をつくっていきたいと思っています。

します。

所がますます発展されますよう、また、皆様のご健勝、ご活躍をお祈りし、お祝いの言葉といたします。

き節目を迎えられましたことを、茨木商工会議所を代表し、心よりお祝い申し上げます。また、これまで茨木市の発展
様に深く敬意を表します。

奉仕・友情の三信条のもと、次代を担う青年経済人が自らを磨き、地域社会の課題解決に挑戦する全国的な組織として
域を愛し、未来を切り拓くという志は、創立以来変わることなく受け継がれています。

以来、青少年の健全育成や地域活性化、防災意識の向上など、時代の要請に応える様々な事業を通じて、本市の発展
体との信頼を築きながら歩んでこられた六十五年の歩みに、心から敬意を表します。

りましても、地域を想い、行動する青年会議所は、かけがえのないパートナーであります。とりわけ、長年ともに開催し
団体が一体となって築き上げた本市を代表する市民参加型事業であり、多くの市民に親しまれる夏の風物詩として定着し
尽力は誠に大きく、両団体が培ってきた信頼と協働の象徴であると感じております。今後も互いの強みを生かし、未来を
てまいりたいと考えております。

皆様のますますのご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げ、創立六十五周年のお祝いの言葉といたします。

Congratulations



公益社団法人日本青年会議所
会頭 加藤 大將

平素より公益社団法人日本青年会議所の運動に対しまして、多大
でとうございます。

65 年という長きにわたり、地域社会の発展と明るい豊かな社会の
より敬意を表します。茨木の地において、地域課題と真摯に向き合い
しております。

貴青年会議所の皆様におかれましては、2026 年度 第 66 代理事
く展開されていることと存じます。その挑戦する姿勢と行動力は、必ず

青年会議所運動は、地域をより良くしたいという純粋な志のもと、
周年という節目は、これまで受け継がれてきた歴史と伝統を振り返る

2026 年度の日本青年会議所は、「真の心が生み出す 幸せな国
社会の創造を目指し、全国各地で運動を展開しております。

結びに、一般社団法人茨木青年会議所のさらなるご発展と、地域
True Mind True Hope
幸せな未来へ



公益社団法人日本青年会議所
近畿地区協議会
会長 石川 紘嗣

一般社団法人茨木青年会議所の皆様が、創立 65 周年という大き
本年、菅貴之理事長が掲げられました基本理念「～このまちに光
また、70 周年に向けて掲げられた運動指針「サステナブル茨木」

近年、人口減少、地域コミュニティの希薄化に加え、世界情勢に
状況にあります。一方で、生成 AI が急速に普及し、人間の能力が
からこそ、若者が国際的な視点を持ちつつ地域に根差し、縁を大事に

貴青年会議所におかれましては、先輩諸兄姉が 65 年という歲月
変化を起こすリーダーを輩出されますことをご祈念申し上げます。

結びに、貴青年会議所の益々のご発展と、65 年の歴史に関わら



公益社団法人日本青年会議所
近畿地区 大阪ブロック協議会
会長 山田 満美子

創立 65 周年を心よりお祝い申し上げます。

一般社団法人茨木青年会議所が創立 65 周年という輝かしい節目
げます。

1961 年の創立以来、65 年という長きにわたり、「明るい豊かな社
はじめ、諸先輩方、そして現役会員の皆様に深甚なる敬意を表します。

青年会議所の運動は、一人の力だけで成し得るものではありません。
大きな力となります。65 年にわたり受け継がれてきた歴史そのものが、

そして、時代や社会環境が大きく変化する今だからこそ、地域の
や伝統を大切にしながらも、変化を恐れず新たな一歩を踏み出し続

本年度、「輝け！」のスローガンのもと、このまちに光を灯すのは
そして、70 周年に向けた運動指針「サステナブル茨木」が、これ

結びに、一般社団法人茨木青年会議所のさらなるご発展と、すべ

なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この度は、一般社団法人茨木青年会議所創立 65 周年、誠におめ

実現に向け、たゆまぬ運動を展開されてこられましたことは、歴代の先輩諸兄姉の熱き志と弛まぬ努力の賜物であり、心ながら、多くの人々に希望と活力をもたらす運動を積み重ねてこられましたことは、地域からの厚い信頼の証であると確信

長 菅貴之君のもと、「輝け!」とのスローガンを掲げ、一人ひとりが輝きを放ちながら、地域の未来を切り拓く運動を力強
や茨木の未来に新たな希望と活力をもたらすものと確信しております。

一人ひとりが主体的に行動し、仲間とともに挑戦を重ねることで、地域社会に新たな価値を創造する運動であります。65
とともに、その想いを未来へつなぎ、新たな時代への一步を踏み出す大切な機会であると存じます。

日本へ」の基本理念のもと、家庭や地域といった身近な暮らしの場から、国民一人ひとりが未来に希望を抱き続けられる

における運動が大きな成果として結実いたしますこと、並びに会員各位のご健勝ご活躍を心よりご祈念申し上げます。

な節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

を灯すのは我々しかない〜」のもと、確かな歩みを進めておられますご活躍は、大変心強く感じている次第でございます。

を力強く推進され、持続可能な地域社会の実現に向け邁進されておられますことに、心より敬意を表します。

おいては緊張が高まり、資源価格の高騰や国際経済の不安定化など、社会はこれまで以上に先行きの見通しが難しい
拡張することで出来ることの幅が広がり、個人の生活だけでなく社会・経済に変革が起きています。そのような時代だか
人と人とをつなぎながら未来を切り拓いていく青年会議所の存在は、これまで以上に重要なものとなってまいります。

をかけて積み上げてこられた地域の信頼と青年会議所のネットワークを存分に活かし、地域社会の発展を通して地域に

れましたすべての皆様へ敬意と感謝を申し上げ、祝辞とさせていただきます。

を迎えられましたことを、公益社団法人日本青年会議所 近畿地区 大阪ブロック協議会を代表し、心よりお祝い申し上げ

会」の実現を目指し、地域の課題と真摯に向き合い、時代の変化を捉えながら運動を展開されてこられた歴代理事長を

志を同じくする仲間とつながり、互いに学び、挑戦し、その想いを次代へと受け継いでいくことで、初めて地域を動かす
茨木青年会議所の確かな力であり、地域から寄せられる信頼の証であると感じております。

未来を自ら考え、行動へと移す青年世代の存在がこれまで以上に求められています。これまで築き上げてこられた歴史
けることが、次の時代へと運動をつないでいく力になるものと確信しております。

我々しかないという強い決意を掲げ活動される皆様の姿は、まさに青年会議所が持つ使命と可能性を体現するものです。
まで築かれた歴史を礎に、新たな挑戦を生み出し、地域の未来を切り拓く力となることを確信しております。

での会員並びに関係者の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

Congratulations



一般社団法人東大阪青年会議所
理事長 西川 洋平

このたび、一般社団法人茨木青年会議所様が創立 65 周年という
わたり築き上げてこられた功績に深く敬意を表します。

貴青年会議所は、1961 年の創立以来、「明るい豊かな社会」の
頼を集めるとともに、青年会議所運動の価値を地域へ広く発信し続
生成 AI をはじめとする技術革新が加速度的に進み、人と人との
運動の意義は、一層高まっているものと確信しております。同じ志を
れたことを大変嬉しく思っております。これからも志を同じくする同志

本年度、貴青年会議所が掲げられる「輝け！」のスローガン、そし
ていると感じております。また、70 周年へ向けた運動指針である「サ
ております。

創立 65 周年という節目が、これまでの歴史を振り返るだけでなく、
一の皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせ



馬山青年会議所
会長 パク・サンジュン

<原文>

이바라기청년회의소 (JCI Ibaraki) 창립 65 주년을 진심으로 축하드립니다.

대한민국 마산청년회의소를 대표하여 이처럼 뜻깊은 창립 65 주년 기념식예
과 역대 회장님들, 그리고 관계자 여러분께 깊은 존경과 진심 어린 축하의 마음을

65 년이라는 역사는 결코 짧은 시간이 아닙니다. 수많은 회원들의 열정과 헌
리더를 양성하고, 지역사회의 발전을 위해 끊임없이 도전하며 새로운 가치를 창조

이바라기청년회의소와 마산청년회의소는 오랜 국제교류를 통해 서로를 이해
미래를 만들어 가겠다는 사명은 우리모두가 함께 공유하는 가치입니다. 그동안

으며, 함께 성장하는 소중한 시간이었습니다. 이러한 인연은 시간이 흐를수록
창립 65 주년 기념식은 지난 역사를 기념하는 자리인 동시에 새로운 미래를 향해
청년 리더들의 중심이 되어 더

욱 큰 발전과 번영을 이루시기를 진심으로 기원합니다. 마산청년회의소 또한
지역사회의 발전과 JCI 의 가치 실현을 위해 함께 노력하겠습니다.

다시 한번 이바라기청년회의소 창립 65 주년을 진심으로 축하드리며, 이 자리

<和訳>

一般社団法人茨木青年会議所の創立 65 周年を心よりお祝い申し
馬山青年会議所を代表し、この意義深い節目にお祝いを述べられ
甚なる敬意と祝福を表します。65 年という歴史は数多くの会員の情
が手本とすべき誇り高き歴史です。両 JC は長年の国際交流を通じ、
未来を開拓する使命感は共通の価値観です。これまで紡いだ友情は
立 65 周年という新たな出発点を機に、築かれた伝統のもと、茨木
展と JCI の価値実現へ向けて尽力してまいります。 茨木青年会議所



キルティプル青年会議所
理事長 プラティック・マハルジャン

<原文>

On behalf of JCI Kirtipur, Nepal, it is my great pleasure
anniversary is more than a milestone. It is a celebration of the
are inspired by this year's slogan, "Shine!", and your meaningful
ability to lead, inspire, and make a lasting impact on society.
from one another, strengthen our partnership, and grow
celebrating many more milestones together and continuing

<和訳>

ネパール・キルティプル青年会議所を代表し、茨木青年会議所の
すべての会員の皆様の情熱と先見の明、そしてたゆめぬ努力の賜物
受けております。すべての人がリーダーシップを発揮し、周囲を照らし、
情は、私たちにとって特別でかけがえのないものです。JC 活動を通
を重ねてお祝い申し上げますとともに、今後も幾多の節目を共に祝い、

輝かしい節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。また、歴代理事長をはじめとする先輩諸氏が長年に

実現を目指し、地域の発展と次代を担う人材の育成に真摯に取り組まれてまいりました。その歩みは、多くの市民から信じてこられた歴史そのものであります。

関わり方そのものが問われる今だからこそ、地域に根差し、顔の見える関係の中で人を育て、まちを育てる青年会議所受け継ぐ大切な仲間として、地域に根差した運動を展開しながらも、互いに刺激し合い、高め合える関係を築いてこらとして、より一層連携を深め、地域社会の発展に貢献できることを心より願っております。

「このまちに光を灯すのは我々しかいない」という基本理念には、地域への熱い想いと青年としての使命感が込められ「ステイナブル茨木」は、未来を見据えた力強い挑戦であり、その歩みがさらに多くの共感を生み出していくものと確信し

新たな未来への第一歩となりますことを祈念するとともに、一般社団法人茨木青年会議所様のさらなるご発展と、メンバーいただきます。

축하의 말씀을 전하게 된 것을 매우 큰 영광으로 생각합니다. 오랜 시간 지역사회를 위해 헌신해 오신 이바라기청년회의소의 모든 회원 여러분 전합니다.

신, 그리고 지역사회를 향한 변함없는 봉사의 정신이 있었기에 오늘의 이바라기청년회의소가 있을 수 있었습니다. 시대의 변화 속에서도 청년해 온 이바라기 JC 의 발자취는 모든 청년회의소가 본받아야 할 귀중한 역사이자 자랑이라 생각합니다.

하고 신뢰하는 진정한 동반자로 성장해 왔습니다. 언어와 문화는 다를지라도 청년의 도전정신과 지역사회를 사랑하는 마음, 그리고 더 나은 이어온 교류는 단순한 방문과 행사를 넘어 서로의 경험을 나누고, 우정을 쌓

더욱 깊어지고 있으며, 앞으로도 양 청년회의소가 미래 세대를 위한 새로운 협력과 우정을 이어가는 든든한 가교가 될 것이라 믿습니다. 오늘 힘차게 나아가는 출발점이라고 생각합니다. 지금까지 쌓아온 전통과 신뢰를 바탕으로 이바라기청년회의소가 앞으로도 지역사회를 선도하는

이바라기청년회의소와 함께 상호 존중과 신뢰를 바탕으로 지속적인 국제교류를 이어가며, 대한민국과 일본의 우정을 더욱 돈독히 하고, 양국을 빛내주신 모든 분들의 건강과 행복을 기원합니다.

上げます。

ますことを大変光栄に存じます。永きにわたり地域に献身されてこられた会員の皆様、歴代理事長、関係者の皆様へ深熱と奉仕の賜物です。時代の変化の中で青年リーダーを育み、地域発展へ挑戦し続けてこられた茨木 JC の足跡は、我々互いを信頼し合う真のパートナーへと成長してまいりました。言葉や文化は違えど、青年の挑戦精神と地域を愛する情熱、時を重ねるごとに深まっており、今後も両 LOM が未来世代のための強固な架け橋であり続けると確信しております。創 JC が今後も地域を導く中心として更なる繁栄を遂げられますよう確信いたします。私たちも共に絆を深め、両国の地域発展の発展と、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

to extend our heartfelt congratulations to JCI Ibaraki on the proud occasion of your 65th Anniversary. This dedication, vision, and countless efforts of every member who has contributed to JCI Ibaraki's journey. We message, "We are the ones who light up this town." It is a powerful reminder that every individual has the The friendship between JCI Kirtipur and JCI Ibaraki is truly special to us. We value the opportunity to learn together through the JCI movement. Congratulations once again on this historic occasion. We look forward to our friendship for years to come.

誇り高き創立 65 周年へ心よりお祝い申し上げます。この節目は単なる通過点ではなく、貴 JC の歩みに貢献してこられたです。私たちは本年のスローガン「輝け!」と、「このまちに光を灯すのは我々しかいない」という強い想いに深く感銘を社会に持続可能な影響を与えられるということを力強く思い出させてくれます。キルティプル JC と茨木 JC が培ってきた友じて互いに学び合い、パートナーシップを深め、共に成長できるこの機会を大変誇りに思っております。この歴史的な節目未永く友情を育んでいけますことを心より楽しみにしております。創立 65 周年、誠におめでとうございます!

70周年へ向けての10年指針 サステナブル茨木

一般社団法人 茨木青年会議所は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

70周年に向けての運動指針

はじめに

去る2020年、JC宣言が19年ぶりに改訂され、「持続可能な地域を創ることを誓う」という文言が入れられました。時代が、社会が変化していく中で、持続可能な地域を創ることは我々青年に課せられた新たな使命です。また同時に、この使命を果たすにあたって、我々自身も持続可能な組織にならなければなりません。

技術の進歩に従って時代の移り変わりが早くなっている昨今、茨木青年会議所創立70周年を目指す中で、市民、団体から青年会議所に求められていることも変化し、また青年会議所運動に参加する人財も変化していくでしょう。時代が変化しても運動が減速しない運動指針を策定する必要があります。

ビジョン概念図



中間検証

2020年のJC宣言改訂を受け、我々は「持続可能な地域と組織」の構築を目標に、茨木SDGsを掲げ歩んできました。この5年、社会のデジタル化や価値観の多様化は予想を上回る速さで進み、地域や人財が求める役割も刻々と変化しています。今、中間検証を行うのは、策定した指針が形骸化していないかを見極め、時代の変化や社会からの要求に対応できる組織へと磨き上げるためです。これまでの歩みを客観的に評価し、現在地を正しく把握することこそが、運動を減速させないための不可欠なプロセスであると考えます。

後半の5年間は、この検証結果を糧に、方針の再編や運動をさらに加速させるフェーズへと移行します。市民や諸団体との連携をより強固にし、変化を恐れぬ柔軟な組織運営を徹底することで、地域課題の解決に挑み続けます。創立70周年という大きな節目に向け、茨木青年会議所が持続可能な未来を切り拓くリーダーとして躍進することをここに誓います。



歴代理事長

2021

年度

歴代理事長



第 61 代理事長
城谷 大樹

スローガン

わくわくの花を咲かせよう!やる気!げんき!茨木!

基本理念

「わくわく」をまちじゅうに広げよう

「PALCOOL」体験!!



茨木SDGs検証項目



4-2 世界で活躍できる人財を育てよう

歴代理事長講評

子どもたちが未知の領域へ飛び込み、自らの力で障壁を乗り越えていく「PALCOOL」を通じて、挑戦する勇気を育む例会を構築いたしました。

画面を介した交流が主流であったコロナ禍において、あえて対面開催にこだわったからこそ、会場には世代を超えて高揚する純粋な熱気が満ちておりました。久々に一堂に会したメンバーの間にも強固な一体感が生まれ、リアルな集いがもたらす本来の価値と、茨木青年会議所の強い絆を改めて確信する契機となりました。

次代へのバトン

「前例踏襲」の枠に縛られず、自由に自分たちらしく挑戦してほしいと願っています。「失敗しないこと」を目的にするのではなく、リスクを恐れずに「成功を取りに行く」姿勢こそが大切です。青年会議所とは、失敗を恐れずに挑戦を重ねることで自己を磨く、貴重な学びの場なのです。

また、失敗を恐れて「気を使う」のではなく、仲間のために自然と動く「気を配る」組織であってください。その先には必ず大きなチャンスが待っています。現役の枠に捉われない大胆な挑戦を、心から応援しています。

創立 60 周年記念式典

～想いを一つに、後世へ紡げ!～



茨木SDGs検証項目



17-1 開発国とパートナーを結び支援しよう
17-2 市民・団体・企業と協力しよう

歴代理事長講評

コロナ禍による会場確保の危機を乗り越え、茨木市内の高校を舞台に開催しました。市北部の豊かな自然を象徴する竹灯籠の演出や、吹奏楽部との連携など、その地だからこそ描ける唯一無二の世界観を提示いたしました。

また、セレモニーのあり方を見直し、一時間半のコンパクトな構成へ移行。これまでの慣例に甘んじることなく、今の時代にできる最善の形をひたむきに模索したその姿勢が、多くの参加者の心に響く温かい成功へと繋がったのだと感じます。

2022

年度



第62代理事長
西田 政央

スローガン

未来創発～想いをかたちに～

基本理念

自己の成長から魅力ある組織の創造

サバイバルしようぜ!!



茨木SDGs検証項目



4-2 世界で活躍できる人財を育てよう

歴代理事長講評

青少年育成事業「サバイバルしようぜ!!」では、キャンプを通じた非認知能力の向上に挑戦しました。初対面の仲間とテント設営や自炊を共にする中で、人見知りだった子が自ら声をかけ、他校の友人と絆を深める姿には胸が熱くなりました。子供の殻を破る体験は、運営側の我々も成長を実感する、正に「共成長」の循環を生む意義深い一歩となりました。

次代へのバトン

運動の過程では、時に理解を得られないことや、壁にぶつかり悩むこともあるでしょう。しかし、理事長が掲げた方針のもと、茨木のまちを想い、メンバーが心血を注いで導き出した答えに間違いはありません。

直面する困難は、すべて自らを高める糧となります。己の信念を信じ、市民のため、仲間のために突き進んでください。その真摯な背中には、必ず道が拓け、共感の輪が広がります。胸を張って、この誇り高き運動を邁進して、未来にバトンを繋ぎてください。

茨木 Bomber Yeah ～宵・酔・夜市～



茨木SDGs検証項目



8-2 新たな雇用を生みだそう

8-4 新たなビジネスチャンスを生みだそう

17-2 市民・団体・企業と協力しよう



歴代理事長講評

「社会奉仕の精神だけでなく、個人のビジネス成長も追求できる場でありたい」との想いから、新たなビジネスチャンスの創出に挑戦しました。メンバー同士が互いの仕事への理解を深め、市民と地域事業者が直接繋がる場を創り出したことは、現在掲げる「茨木 SDGs」の経済的土台となりました。仕事を通じた熱い繋がりも、持続可能な茨木を築く原動力になると確信しています。



第 63 代理事長
北村 真一

2023

年度

スローガン

Fight for the future!!

基本理念

全員で目標を達成する組織づくり

ミルシルフェスタ



茨木SDGs検証項目

17

開発国とパートナーを結び支援しよう。
中長・短期、多様な協力しよう。



17-1 開発国とパートナーを結び支援しよう

歴代理事長講評

地元茨木の企業と学生に主役となってもらい、両者の相互理解を深めるマッチングサイトを展開しました。茨木市最大級のイベントである茨木フェスティバルに参画する学生との繋がりやサークルへの飛び込み広報を駆使して、地域の優良企業と熱意ある学生を直接結びつけることに成功しました。サービス普及期に新しいデジタル技術を取り入れ、地域の雇用や学生の社会経験の場を提供する先進的な例会でした。

次代へのバトン

かつてのような100人規模の組織への拡大は極めて困難だという声もありましたが、高い目標を掲げ一丸となれば必ず達成できるという、茨木 JC の底力を証明したかったのです。結果、私たちは、会員拡大日本一を達成し、栄光のゴールデンゴングを獲得し、そのポテンシャルを証明することができました。

現在の茨木青年会議所は、行政や経済界のトップと連携し、まちの未来を動かせる唯一無二の環境にあります。この基盤を維持し、地域に貢献し続けるためにも仲間が必要です。やりたいことがある若い世代の皆様こそ、この最高の環境で学び、自分たちの可能性を信じて突き進んでください。

茨木ダッシュ村



茨木SDGs検証項目

5

性別の平等を実現しよう。
男女の役割や責任を分かちあおう。



5-2 個性が生かされるまちをつくろう

歴代理事長講評

茨木市北部の豊かな自然に囲まれながらも、休眠状態にあった広大な野外活動施設「徳秀苑」の再開拓・整地に挑みました。業者委託をすれば数千万円規模の費用が想定される難事業でしたが、茨木青年会議所の圧倒的なパワーで新たな市民活動の場へと再生させました。現在は地域住民の交流や自然体験の拠点として広く活用されており、組織の行動力と地域貢献の真髄を示すことができました。



第64代理事長
山本 卓

2024年度

歴代理事長

スローガン

One team Ibaraki

基本理念

縦横無尽に走りまをひとつに

古武術から学ぶ身体能力向上教室



茨木SDGs検証項目



3-2 まちの事故をなくそう

4-2 世界で活躍できる人財を育てよう。



アジェンダシステムの導入



茨木SDGs検証項目



9-2 新しい技術を取り入れよう。

歴代理事長講評

近年、子どもたちのコミュニケーションの希薄化が課題となる中、すべてのスポーツの根幹に繋がる「古武術」に着目した本例会は、非常に有意義な試みでした。大学教授の協力を得て、単なる体験に留まらず、身体を通じた教育アプローチを展開した運動構築は見事でした。何より、純粋に楽しむ子どもたちの笑顔が溢れ、私たちも一緒になって古武術に挑戦した時間は、今なお心に深く残る素晴らしい思い出です。地域に確かな絆を紡いだ、記憶に残る一歩となりました。

歴代理事長講評

組織改革における「組織運営の効率化」の象徴となったのが、アジェンダシステムの導入でした。本会のみならず他 LOM でも広く採用される本システムは、メンバーの出向先での活躍も見据えた非常に意義のある選択でした。旧来の手法から新たな技術への移行期において、当時の担当委員会が苦勞しながらも、実直に仕組み作りに奔走してくれた姿が強く記憶に残っています。今ではこのシステムによる円滑な運営が当たり前になっており、当時の挑戦が現在の強固な組織基盤を作っています。

次代へのバトン

創立65周年の節目を迎え、我々は次の70周年、そしてその先を見据えて進む新たなフェーズに入りました。挑戦には課題も伴うはずですが、今の一歩が5年後の組織の強さとなります。本業での責任を果たし、そこで培った力を青年会議所活動に活かしながら、いかに周囲を巻き込めるかが鍵です。最大の課題である会員拡大ですが、時代に即した変革を進める一方で、必ず対面コミュニケーションの価値が見直される波が来ます。その良さを実感できる5年間へ向け、現役メンバーが「One team」となり、一丸となって突き進んでくれることを期待しています。



第 65 代理事長
西村 彩

2025

年度

スローガン

やってみよう!

基本理念

日本一のびしろのあるまち茨木

持続可能な組織と収益化セミナー



茨木SDGs検証項目

4



4 質の高い教育をみんなに

歴代理事長講評

10年指針組織改革【会費ゼロへ】を目指し、青年会議所運動の本質を損なうことなく、会費以外の財源を確保するための基礎知識を身に付けるため、第68代会頭鎌田長明先輩に講師としてお越しいただき、例会を開催しました。

グループワークを通じて「予算に頼らず価値を生み出すマインド」を培い、その学びは企業連携やクラウドファンディングの活用へとつながりました。

さらに、例会で得た学びや取り組みが他 LOM・他ブロックにも広がり、事業収益化の可能性について多くの JC メンバーが学び、関心を深める機会となったことを、今振り返っても嬉しく、誇りに思っています。

次代へのバトン

青年会議所活動は、誰かにやらされるものではありません。自分が「やってみよう」と思ったことに、仲間とともに挑戦できる場所です。

思い通りにいかないことや、予期せぬ壁にぶつかることもあるでしょう。それでも、仲間と力を合わせ、自分たちが本当にやりたいことを一つでも貫いてください。その先には、きっと今まで見たことのない景色が待っています。

そして、もし悩んだり迷ったりした時は、一人で抱え込まず、周りの仲間を頼ってください。困ったとき、悩んだときは、いつでも声をかけてください。

私はこれからも、皆さんの一番身近な村人 A として、皆さんの「やってみよう!」を応援しています。

プロと一緒に夢を叶える! 夢のステップアップ!



茨木SDGs検証項目

4



4 質の高い教育をみんなに

5



5 ジェンダー平等を実現しよう

歴代理事長講評

子どもたちの「夢を叶えたい」という想いに一年間向き合い、夢の実現までを3つのステップで支える事業に取り組みました。夢を叶えるためのステップを共に考え、職業体験を経て、実際に企業で夢を叶える体験へとつなげました。

「日本一のびしろのあるまち茨木」を目指し、企業や地域と連携して子どもたちの可能性を広げたこの取り組みは、イオンモールでの活動が評価され、全国のイオンモールの中で「最優秀賞」を受賞しました。

一年間、子どもたちの夢に本気で向き合った取り組みが形となり、全国で評価されたことを、本当に嬉しく、誇りに思っています。

10年指針達成に向けて

サステナブル茨木見直し方針について

茨木青年会議所は創立 65 周年を迎えるにあたり、2020 年に策定した運動指針を現在の社会情勢に合わせて再編いたしました。今回の見直しは、過去 5 年間の活動実績や実効性を検証し、より地域に根ざした指針として再編することを目的としています。

1. 選択と集中に

活動実態に合わせ、17 項目から 14 項目へとスリム化しました。専門性が高く JC 単独での展開が困難な 3 項目（エネルギー、産業革新、不平等）を削除し、地域課題へ戦略的に資源を集中させます。

2. 茨木へのローカライズ

海のない茨木市の特性を反映し、目標 14 を「山の豊かさを守ろう」へ転換しました。ダムパークいばきた等の地域資源活用や防災強化を通じ、理想論ではなく具体的な行動を促す表現へと修正しています。

3. 組織の持続可能性

独自項目として「家族からも理解を得られる組織になろう」を追加しました。身近な存在の理解こそが、真に持続可能な運動の原動力であると確信し、次世代のために行動し続けます。

創立 70 周年に向けての活動指針について

我々は、「創立 70 周年に向けての活動指針」として茨木 SDGs を掲げました。17 の目標と、その達成を後押しする 57 のターゲットから構成されるこの方針は、茨木青年会議所の活動基盤となり、我々の運動が地域や住民のみならず、自己の発展や成長に寄与することを確約する道標となっております。

地域との繋がりを構築し、愛着心を醸成するなかで、私たちは市民一人ひとりが輝ける持続可能な社会の実現を目指してまいりました。しかし、これまでの検証過程においては、活動実績に偏りが生じていることも事実です。そこで本年度は、社会情勢の変化や活動実態に即して、一部項目の削除やローカライズといった再編成を実施いたしました。

それぞれの目標やターゲットは、どれも茨木の未来を形作るかけがえのないものであり、真摯に向き合うべき使命です。後半の 5 年間では、これまでの歩みを冷静に見つめ直し、新たなアプローチをもって運動をさらに加速させていきます。このまちに光を灯すリーダーとして、70 周年という大きな節目に向け、全メンバー一丸となって邁進することをお誓い申し上げます。

創立70周年に向けた 「茨木SDGs」の再編

この度、これまでの運動を振り返る中間検証を行い、創立70周年の節目へ向けた新たな活動方針として、「茨木SDGs」の内容を以下の通り見直し、再策定いたしました。



1

誰もが満足に食事ができるまちにしよう。
経済的な理由から夢を諦めないまちにしよう。
貧困撲滅に向けた投資拡大なまちにしよう



1. 貧困問題を考えてみよう

- 1-1 誰もが満足に食事ができるまちにしよう。
- 1-2 経済的な理由から夢を諦めないまちにしよう。
- 1-3 貧困撲滅に向けた投資拡大なまちにしよう。

2

自給率を上げよう。
まちの特産品を広めよう。
災害時の食料品の確保、備蓄をしよう。



2. 飢餓問題を考えよう

- 2-1 自給率を上げよう。
- 2-2 まちの特産品を広めよう。
- 2-3 災害時の食料品の確保、備蓄をしよう。

3

まちから薬物をなくそう。
まちの事故をなくそう。
路上喫煙を0に。
感染症に対する備えを確立しよう。



3. 茨木の健康と福祉を 地域で考えよう

- 3-1 まちから薬物をなくそう。
- 3-2 まちの事故をなくそう。
- 3-3 路上喫煙を0に。
- 3-4 感染症に対する備えを確立しよう。

4

働きがいがある仕事をみつける教育環境を
つくろう。
世界で活躍できる人材を育てよう。



4. 質の高い教育を 次世代の子どもたちに

- 4-1 働きがいがある仕事をみつける教育環境を
つくろう。
- 4-2 世界で活躍できる人材を育てよう。

5

男女が活躍できるまちをつくろう。
個性が生かされるまちをつくろう。



5. ジェンダー平等を実現しよう

- 5-1 男女が活躍できるまちをつくろう。
- 5-2 個性が生かされるまちをつくろう。

6

水を大切にしよう。
まちの水源を守り、親しみをもとう。
まちのトイレを清潔にしよう。



6. 茨木の水を大切にしよう

- 6-1 水を大切にしよう。
- 6-2 まちの水源を守り、親しみをもとう。
- 6-3 まちのトイレを清潔にしよう。

7

まちへの企業の誘致や、新規設立を応援しよう。
新たな雇用を生みだそう。
まちの観光資源を発信しよう。
新たなビジネスチャンスを生みだそう。



7. 地域の魅力を活かし、働きがいと成長を生み出そう

- 7-1 まちへの企業の誘致や、新規設立を応援しよう。
- 7-2 新たな雇用を生みだそう。
- 7-3 まち観光資源を発信しよう。
- 7-4 新たなビジネスチャンスを生みだそう。

8

地震に強いまちをつくらう。
台風にも強いまちをつくらう。
まちの魅力も発信しよう。
誰もが移動に不自由のないまちにしよう。
交通の安全を向上させよう。
都市部と山間部の繋がりを構築しよう。



8. 住み続けたいまちづくりを

- 8-1a 地震に強いまちをつくらう。
- 8-1b 台風にも強いまちをつくらう。
- 8-2 まちの魅力を発信しよう。
- 8-3 誰もが移動に不自由のないまちにしよう。
- 8-4 交通の安全を向上させよう。
- 8-5 都市部と山間部の繋がりを構築しよう。

9

ゴミを減らそう。
フードロスを減らそう。
資源のリサイクルを増やそう。
地産地消を推進しよう。
リサイクル商品の推進をしよう。



9. 未来につなげる、つかい方・つくり方を考えよう

- 9-1 ゴミを減らそう。
- 9-1a フードロスを減らそう。
- 9-2 資源のリサイクルを増やそう。
- 9-3 地産地消を推進しよう。
- 9-4 リサイクル商品の推進をしよう。

10

災害が起きても一人も犠牲の出ないまちにしよう。
気候変動対策の理解、協力をしよう。



10. 災害や気候の変化に備えよう

- 10-1 災害が起きても一人も犠牲の出ないまちにしよう。
- 10-2 気候変動対策の理解、協力をしよう。

11

山のゴミを減らそう。
綺麗な山をのこそう。
山の豊かさを知り、まちぐるみでできる取り組みを進めよう。



11. 山の豊かさを守ろう

- 11-1 山のゴミを減らそう。
- 11-1a 綺麗な山をのこそう。
- 11-2 山の豊かさを知り、まちぐるみでできる取り組みを進めよう。

12

まちの森を守ろう。
まちの森の魅力を伝えよう。
まちの動物を守ろう。
まちの農地を守ろう。



12. まちの豊かさを守ろう

- 12-1 まちの森を守ろう。
- 12-1a まちの森の魅力を伝えよう。
- 12-2 まちの動物を守ろう。
- 12-3 まちの農地を守ろう。

13

暴力をなくし、犯罪を減らそう。
子どもの虐待や家庭内暴力をなくそう。



13. 平和と公正をすべての人に

- 13-1 暴力をなくし、犯罪を減らそう。
- 13-2 子どもの虐待や家庭内暴力をなくそう。

14

開発国とパートナーを結び支援しよう。
市民・団体・企業と協力しよう。
家族からも理解を得られる組織になろう



14. パートナーシップで目標を達成しよう

- 14-1 開発国とパートナーを結び支援しよう
- 14-2 市民・団体・企業と協力しよう
- 14-3 家族からも理解を得られる組織になろう

組織改革について

茨木組織改革4のゴール図

組織改革とは



現在日本は少子高齢化社会へ突入しています。茨木市においても会員対象となる20歳から39歳の人口が減少しており70歳以降の人口に増加傾向がみられます。今後の人口推移も上記のようなことが考えられ、それに伴い会員の減少が予想されます。このままの組織運営では私たち茨木青年会議所の運動が縮小または発信できなくなることが想定されるため組織改革が必要です。そして、時代の流れもはやくなり10年前にはなかった技術、職業など時代はどんどん変革していきます。その時代に合わせた運動ができるように、多種多様な職業、「まちを想う人」が私たちの組織に賛同していただける組織を目指します。

会員について

- 1-1
すべての人が参加できる団体へ
- 1-2
ビジネス交流のある会員

事業活動収入について

- 2-1
会費をゼロへ
- 2-2
会員費以外の収入の確立化
- 2-3
賛助会員の確立化

組織運営の効率化

- 3-1
すべての人が参加できる組織運営
- 3-2
家族を大切にできる組織

まちに応援される組織

- 4-1
認知度100%の組織
- 4-2
団体にも応援される組織

1 会員について

1-1 すべての人が参加できる団体へ

1-2 ビジネス交流のある会員

今後の20代、30代の人口減少に対応し会員数を維持または増やしていくためにも会員制度の改革が必要です。現在正会員の入会資格として満20歳以上満40歳未満の品格ある青年という定義がございすが、賛助会員や新たな会員制度を活用して「まちを想う人」という定義のもと、まちに住む人だけではなくまちを想っているが遠方に住んでいる人や、20歳未満または40歳以上の人に入会の機会を与えていくことで、まちを想う人が増えまちづくりに参加する人が増えていくことでさらにまちが発展していきます。

2 事業活動収入について

2-1 会費ゼロへ

2-2 会員以外収入の確立化

2-3 賛助会員の確立化

現在、事業活動収入のほとんどが会費収入、入会金収入で構成されています。会費を払えないがまちづくりに参加したいという志ある会員も取り残さずに入会させるためにも会費や入会金収入だけではなく事業活動収入が必要です。

3 組織運営の効率化

3-1 すべての人が参加できる組織運営

3-1a 遠隔参加の導入

3-2 家族を大切にできる組織運営

3-2a 懇親会のルール化

3-2b すべての事業に無駄がないか精査

3-2c 会議時間のルール化

社会動態が日々変化し、価値観、ライフスタイルやビジネスモデルも変化し続けています。そして我々青年会議所を取り巻く環境も大きく変化しています。

4 まちに 応援される組織

4-1 認知度100%の組織へ

4-2 団体にも応援される組織へ

4-2a 学生を巻き込んだ組織へ。

4-2b 市内に応援する団体が100団体

我々の運動には会員だけではなく、まちで住み暮らす市民や団体の応援が不可欠です。

組織改革スケジュール





2025 年度 65 周年準備委員会

本年、無事に創立 65 周年を迎え、このようにして輝かしい軌跡をまとめた記念誌が完成いたしましたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年、私たちは準備委員会として、この大舞台に向けた「助走の 1 年間」を担当させていただきました。周年の準備という大役には当然ながら難しさを感じる場面も多々ございましたが、そんな私たちを常に温かく導いてくださったシニアの先輩方、そして多大なご支援をいただきました関係団体の皆様の存在は、何よりも心強い原動力でした。皆様への感謝の念は尽きません。

2025 年度は約 8 割のメンバーが 3 年未満という経験の浅さから、一步一步手探りで進めた 1 年間ではありましたが、メンバー一丸となって知恵を絞り、本年の実行委員会へと「良いパス」を繋げられたと感じております。

この準備期間を通じて得た多くの学びと、皆様との絆は、私たち準備委員会メンバーにとって一生の財産です。最後になりますが、私たちの活動を支えてくださった全ての皆様に心からの感謝を申し上げ、次なる未来へ共に歩みを進めていきましょう。

2026 年度 65 周年実行委員会

創立 65 周年を迎え、その軌跡を記した記念誌をここに刊行できましたことを心より嬉しく存じます。前回の節目からわずか 5 年ですが、AI の台頭など技術革新は一段と加速しました。こうした激動の時代だからこそ、断片的なデータとしてだけでなく、組織の歩みを一冊の資料とすることの意義を、編集作業を通じて再認識いたしました。

記念誌構成にあたり過去の記録を紐解く中で、困難な社会情勢にあっても常に地域のために奮闘してこられた諸先輩方の輝かしい情熱に触れ、改めて身の引き締まる思いです。この編集作業で感じた脈々と受け継がれてきた歴史への誇りは、私たち実行委員会メンバーにとって大きな財産となりました。

最後になりますが、資料提供や取材にご協力いただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。本誌が、茨木青年会議所がさらなる持続可能な未来を描くための確かな道標となることを願い、結びの言葉といたします。

一般社団法人 茨木青年会議所 創立65周年記念誌



発行：一般社団法人 茨木青年会議所

〒567-0883 大阪府茨木市大手町 1-27 山崎第 4 マンション 3F

TEL：072-623-2163 / FAX：072-627-3444

 @ibarakijc

 @jciibaraki

 @一般社団法人
茨木青年会議所

60周年記念誌は
こちら▼

